

平成22年度 学校経営計画書及び最終評価報告書

石川県立金沢泉丘高等学校(全日制課程)

学校長 浅田 秀雄

1 教育目標

心身一如の発達につとめて

真理を求め、勉学を第一義とすること
情操を豊かにし、品位を高めること
誠実にして、社会から信頼されること

正義を愛し、自らを清くすること
自らとともに、他の人格を重んずること

2 中・長期的目標

(1) 学校の現状

- ① 本校は、創設以来「心身一如」を校是とし、調和のとれた人材育成に取り組んできた。確かな学力を身につけさせるとともに、心身共に健全で品位と良識あふれる次世代を担うリーダーの育成をめざしている。
- ② 大学進学に関しては、県内有数の進学校としての実績を収めているが、全国を視野に高い志を掲げて学習させるとともに、第一志望を実現させることをめざしている。
- ③ 平成15年度に文部科学省の指定を受けたスーパーサイエンスハイスクールの研究開発が、平成18年度にさらに5年間延長されることとなった。生徒の興味・関心を高める指導法の研究をとおして、理数科だけでなく学校全体の活性化を図っている。
- ④ 学校評価の実施、土曜スクール開校、校内職員研修の充実等を行い、保護者や県民から信頼される学校づくりを進めている。

(2) 生徒に関する中・長期的目標

- ① 確かな学力の育成
進学実績の向上をめざし、質の高い教科指導と学習意欲に応える授業を組織的に展開する。
- ② 豊かな心の育成
「心身一如」の具現化に向けた有意義な体験が展開されるよう、部活動・学校行事・社会奉仕活動等の環境整備を図り、「ふるさとを想ういしかわのリーダー」に必要な人格の陶冶をめざす。

(3) 教職員・学校組織等の望ましい在り方

- ① 組織の活性化と指導力の向上
校務分掌において、副校長・教頭・主幹教諭・主任の位置付けを明確にし、学校運営の機能化を図る。教職員が互いに教育実践をとおして、計画的に指導力の向上を図る。
- ② 開かれた学校づくり
本校の方針や特色ある取り組みを、積極的に県民に伝え、広く協力・支援が得られる学校とする。また、PTAや地域社会とも連携することによって、本校の教育活動が有機的に展開することをめざす。

3 今年度の重点目標

創立120周年にむけ、建学精神に基づいた教育活動の実践に努める。

- (1) 「勉学を第一義とする」をふまえ、高い学力を身につけ進路志望の実現を図る。
 - ・ 1時間の授業の大切さを意識し、意欲的に取り組む。
- (2) 「品位を高め、他の人格を重んずること」をふまえ、よりよき集団づくりをめざし、絶えず自己研鑽に努める生徒を育てる。
 - ・ 挨拶の励行、体力の向上、環境美化、成果ある部活動と生徒会活動の活性化に努める。
- (3) 「正義を愛し、社会から信頼されること」をふまえ、生徒とともに開かれた学校づくりに努める。
 - ・ 保護者懇談会、授業公開の機会拡大。地域社会と連携した生徒活動の推進。

平成22年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢泉丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策)
<p>1 「勉学を第一義とする」をふまえて、高い学力を身につけ進路志望の実現を図る。</p> <p>・1時間の授業の大切さを意識し、意欲的に取り組む。</p>	<p>① 校内研究授業や研究協議会などを通して、授業の質的な向上を図り、授業改善に取り組む。</p>	教務課	<p>【満足度指標】 生徒の授業に対する満足度が高まった。</p>	<p>「授業が充実しているか」について、4段階評価の平均値が、 A 3.40点以上 B 3.35点以上 C 3.30点以上 D 3.30点未満 ※ 4段階評価の基準 ・よくあてはまる …4点 ・ややあてはまる …3点 ・あまりあてはまらない …2点 ・全くあてはまらない …1点 ※ 昨年度は3.35点</p>	C 4段階評価 平均3.34点	<p>・校内研究授業を5教科で実施し、教科の研究テーマに基づいた研究協議を行っている。 ・12月実施の「生徒による授業評価」では、4段階評価の平均値が3.34点であった。(7月:3.32点) ・生徒の変化に対応した初期指導がますます重要になってきており、より一層生徒の状況把握、授業の改善に努めていきたい。</p>
	<p>② 部・同好会の活動終了後、速やかに帰宅し、学習への切り替えができるよう、時間の有効活用について指導する。</p>	生徒指導課	<p>【成果指標】 部活動等から学習への切り替えができる生徒が多くなった。</p>	<p>「帰宅後、学習への切り替えがうまくできている」という生徒の割合が、 A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満</p>	B 切り替えができている 66.8%	<p>・12月実施のアンケート調査で、「帰宅後、学習への切り替えがうまくできている」と答えた生徒の割合は、66.8%であった。 ・下校時刻は18:30としているが、保護者の一部から、帰宅時間が遅いという指摘がある。全体としては、部活動後、部室近辺などで談笑している生徒も少なくなっており、今後とも、時間を有効に活用する習慣が身につくよう指導していきたい。</p>
	<p>③ 授業等による基礎学力の定着を大前提とした上で、難関大入試分析や東大・京大・医学部説明会等の充実を図り、受験集団としての意識を高める。</p>	進路指導課	<p>【成果指標】 受験集団としての意識が高まり、東大・京大の合格者が増加した。</p>	<p>東大・京大の合格者の合計が、 A 30人以上 B 25人以上 C 20人以上 D 20人未満 ※ 昨年度は21人(現役:東大7、京大14)</p>	B 合格者 26人 (東大8、京大18)	<p>・東大・京大の合格者の合計は、26人であった。 ・3年学年団と連携し、記述力(国公立大2次力)を伸ばすために、①平日補習(大学別)、②理科・数学の特別補習(最終登校日以降)を希望者制で実施した。 ・教職員対象の東大入試研究会・医学部入試情報連絡会、また、生徒対象の東大・京大・医学部入試説明会、大学別模試の結果を踏まえた入試情報連絡会を実施した。 ・次年度もこれらの取組を継続していきたい。</p>
	<p>④ 外部講師による講演会や大学・研究所訪問により、生徒の科学に対する興味関心を高めるとともに、将来の進路選択にもつなげる。</p>	SSH推進室	<p>【成果指標】 講演会や大学・研究所訪問が、将来の進路選択に役立った。</p>	<p>「講演会や大学・研究所訪問が、進路選択に役立った」という生徒の割合が、 A 75%以上 B 75%未満 C 55%未満 D 35%未満</p>	A 進路選択に役立った 87.3%	<p>・外部講師による講演が11回、大学・研究所訪問を14回実施した。 ・1月実施のアンケート調査で、「講演会や大学・研究所訪問が、進路選択に役立った」という生徒の割合は、87.3%であった。 ・大学や研究所との連携を進め、生徒の進路選択の一助としていきたい。</p>
	<p>⑤ ホーム担任及び学年主任は、年間5回以上の個別面接指導を行い、生活面をはじめ、授業や家庭学習、校外模試に臨む姿勢など学習面について、個に応じた指導を行う。</p>	1学年 2学年	<p>【満足度指標】 個人面接指導により、生徒の学習姿勢や学力が向上した。</p>	<p>「学年団の指導が、自分の学習姿勢や学力の向上に役立った」という生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	B 学習姿勢等の向上に役立った 88.2%	<p>・12月実施のアンケート調査で、「学年団の指導が、自分の学習姿勢や学力の向上に役立った」と答えた生徒の割合は、88.2%であった。 ・各学年とも約5回の個人面接を行い、学習・進路等についての相談を受け、個別指導を行った。また、学年主任による面談も実施している。 ・個に応じた学習指導を一層充実させていきたい。</p>
	<p>⑥ 授業をより充実させるとともに、補習や個人添削等により、生徒一人一人の志望や学力にあわせた指導を、時機を逸することなく行う。</p>	3学年	<p>【成果指標】 個に応じた指導により、第一志望の大学への進学が実現した。</p>	<p>難関10大学及び国公立大学医学科の合格者が、 A 100人以上 B 90人以上 C 80人以上 D 80人未満 ※ 昨年度は77人(現役)</p>	B 合格者 93人	<p>・難関10大学及び国公立大学医学科の合格者は、93人であった。 ・進路指導課と協力して、東大・京大・医学部説明会や学年集会を実施し、生徒の進路意識・目的意識を高めた。 ・また、授業の充実に加え、平日補習や添削指導等によって難関大学入試に対応できる2次力の養成に努めた。 ・次年度もこれらの取組を継続していきたい。</p>
	<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>・きめ細やかな学習指導、進路指導ができており、成果も上がっている。一部の取組については、達成度判断基準の見直しが必要である。 (①:集計結果はCであるが、学校のことを良く理解している3年生の評価がAであることから、生徒の満足度は十分に高いものと考えられる。) (⑥:成果指標に照らし、判断基準を「第1志望の大学への合格率」とした方が良いのではないかな。)</p>				
<p>学校関係者評価委員会の評価結果をふまえた今後の改善策</p>	<p>・生徒による授業評価を参考にしながら、研究授業や授業参観により授業の改善を一層進める。 ・大学説明会や個人面談、補習、個人添削などを充実させ、第一志望の大学への進学を実現する。 (本校では、難関10大学への希望者が多いことから、判断基準は当面維持して行きたい。)</p>					

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策）
「品位を高め、他の人格を重んずること」をふまえて、よりよき集団づくりを目指し、絶えず自己研鑽に努める生徒を育てる。 ・挨拶の励行、体力の向上、環境美化、成果ある部活動と生徒会活動の活性化に努める。	① 挨拶をきちんと行うことにより、相手を尊重する態度を育成する。	生徒指導課	【成果指標】 しっかりと挨拶が出来る生徒が多くなった。	「自分はしっかりと挨拶をしている」と答えた生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 ※ 昨年度は90.9%	B 挨拶をしている 88.8%	・年間を通して登校指導を実施し、挨拶の励行を促している。 ・12月実施のアンケート調査で、「自分はしっかりと挨拶をしている」と答えた生徒の割合は、88.8%であった。 ・教師の声掛けに答えるだけでなく、自ら進んで挨拶をするよう促していきたい。
	② 部活動等の活性化及び競技力の向上を図る。	生徒指導課	【成果指標】 生徒主体の活発な部活動により、県総体の総合順位が上がった。	県総体の総合順位が、 A 3位以上 B 6位以上 C 9位以上 D 10位以下 ※ 昨年度は7位（男8位、女14位）	D 総合順位 10位以下	・高体連の発表(1月)では、上位15校に入ることはできなかった。 ・しかし、ベスト8に入った数は昨年度以上であり、自主的で活発な部活動が維持できている。 ・石川の学校教育振興ビジョン推進事業で、「トレーナー活用による部活動活性化プロジェクト」に取り組んだ。 ・生徒の主体性を尊重しながら、競技力の向上を図っていきたい。
	③ 環境美化の意識を高め、清掃活動への取組を充実させる。	保健環境課	【満足度指標】 清掃活動が充実し、学校の環境美化が進んでいる。	「清掃タイムを徹底することにより、環境美化への取組が進んだ」という生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B 環境美化への取組が進んだ 73.4%	・用具の点検・補充が進んだこともあって、12月実施のアンケート調査で、「清掃タイムを徹底することにより、環境美化への取組が進んだ」と答えた生徒の割合は、73.4%であった。 ・清掃タイムの取組をさらに充実させ、学校の環境美化に努めていきたい。
	④ 魅力ある充実した図書館を目指し、蔵書管理の電算化を図るとともに、図書コーナーを充実させるなど、読書・学習環境の整備に努める。	図書課	【成果指標】 図書館の利便性が高まり、図書の貸出し数が増えている。	1年間（1月末現在）の本の貸出し数が、 A 4,500冊以上 B 4,500冊未満 C 4,000冊未満 D 3,500冊未満 ※ 昨年度は3,520冊	C 貸出し数 3,976冊 (1月末現在)	・蔵書管理の電算化により、貸出業務の利便性が高まったこともあって、入館者数は昨年約1.47倍(6,050人増)と大幅に伸び、貸出数も1.13倍(456冊増)の微増となった。 ・今後とも、校内読書会、図書館便り、閲覧室の特設コーナー、新着図書のPRなどを充実させ、生徒がより読書に親しむことのできる環境作りに努めていきたい。また、「青春の一冊」の発行、記念祭での「古本市」の開催など、保護者が図書館活動に協力・参加できる機会も設けていく。
	⑤ 登校時、SH、授業など、あらゆる機会を捉えて、自己責任や規則遵守の意義を理解させるための指導を行う。	1学年 2学年 3学年	【成果指標】 規範意識の高まりにより、遅刻が減少した。	1日あたりの遅刻者数が、学年平均で、 A 3.0人未満 B 4.0人未満 C 5.0人未満 D 5.0人以上 ※ 昨年度は3.1人	B 1日あたりの遅刻者数 学年平均 3.0人 (1月末現在)	・1日あたりの遅刻者数は、1月末現在で学年平均3.0人であり、昨年の3.1人をわずかに下回った。 ・春から雨天が多かったため、バスの遅延等により4・5月の遅刻者が多くなった。悪天候時には、いつもより早く家を出るよう呼びかけていく。
	⑥ 遠足、スポーツ大会、創立記念祭等の学校行事を通して、クラスの団結力を高め、生徒の自主性・主体性を育てる。	1学年 2学年 3学年	【満足度指標】 学校行事を通して、自主性・主体性が身についた。	「創立記念祭等の学校行事に取り組むことで、自主性・主体性が身についた」という生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B 自主性・主体性が身についた 85.1%	・創立記念祭を始めとする学校行事に、ホーム一丸となって取り組んだ。12月実施のアンケート調査で、「創立記念祭等の学校行事に取り組むことで、自主性・主体性が身についた」と答えた生徒の割合は、85.1%であった。 ・学校行事をとおして身についた自主性やクラスの団結力などを、学習面でも生かせるよう指導していきたい。
学校関係者評価委員会の評価	・人格の陶冶を目指す取組は、概ね目標を達成している。今後とも各取組を一層充実させてほしい。 ①：挨拶は社会生活でも大切なことであり、自ら挨拶できるような習慣を身につけさせたい。 ②：部活動の評価は、成績や結果ではなく「生徒の満足度」で測ってはどうか。 ④：若い頃の読書は人格陶冶のベースになるものであり、図書館の利用を推奨してほしい。また、電子図書への対応についても考えていきたい。 ⑥：創立記念祭等の学校行事は、自主性・主体性を高める良い機会であり、今後とも継続していただきたい。					
学校関係者評価委員会の評価結果をふまえた今後の改善策	・部活動や生徒会活動、学校行事等に積極的に取り組むとともに、挨拶や読書の習慣を身に付けることにより、自主性や主体性、リーダー性、社会性などを育み、社会で必要とされる望ましい人格の形成を目指す。					

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策）
<p>3 「正義を愛し、社会から信頼されること」をふまえて、生徒とともに開かれた学校づくりに努める。</p> <p>・保護者懇談会、授業公開の機会拡大。地域社会と連携した生徒活動の推進。</p>	<p>① PTA総会や「いしかわ教育ウイーク」等による学校公開を進めるとともに、生徒主体の「地域活動チャレンジ事業」を充実させることにより、保護者や地域から信頼される学校づくりを目指す。</p>	<p>総務課</p>	<p>【成果指標】 本校の教育に対する保護者等の関心が高まり、学校公開への参加者が増えた。</p>	<p>PTA総会、「いしかわ教育ウイーク」における来校者数の合計が、 A 1,000人以上 B 750人以上 C 500人以上 D 500人未満 ※ 昨年度は765人</p>	<p>B</p> <p>来校者数 合計891人</p>	<p>・PTA総会には、728名（同伴者を除く）の保護者が参加し、「いしかわ教育ウイーク」には、地域の方も含め約160名が参加した。 ・保護者による学校評価では、開かれた学校づくりへの取組が高く評価されている。 ・保護者懇談会や学年保護者ガイダンスなどの機会を捉えて、PRに力を入れていきたい。</p>
		<p>教務課</p>	<p>【満足度指標】 積極的に授業を公開することによって、学校が保護者等から、より一層信頼されるようになった。</p>	<p>保護者による学校評価の「教職員は指導力に優れ、信頼できる」に対し、「よくあてはまる」及び「ややあてはまる」と答えた保護者の割合が、 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満 ※ 昨年度は94.0%</p>	<p>B</p> <p>指導力に優れ、 信頼できる 94.1%</p>	<p>・12月実施のアンケート調査では、「教職員は指導力に優れ、信頼できる」と答えた保護者の割合は、94.1%であった。 ・授業については、校内研修会等をとおり、より一層改善に努め、PTA総会・土曜スクール・「いしかわ教育ウイーク」などにより積極的に公開していく。</p>
	<p>② ISO活動「節電・紙の節約やリサイクル・ゴミの分別」を通して、環境保全意識の向上を図る。</p>	<p>保健環境課</p>	<p>【満足度指標】 学校や地域での環境活動を通して、生徒の環境意識が高まった。</p>	<p>「ISO活動の実践や広報を通して、環境意識が高まった」という生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>D</p> <p>環境意識が高まった 45.5%</p>	<p>・12月実施のアンケート調査では、「ISO活動の実践や広報を通して環境意識が高まった」と答えた生徒の割合は、45.5%であった。 ・具体的な成果についてはISO活動の各種データを分析して判断する。 ・ISO活動だけでなく、クリーンボランティアやボランティア清掃等をとおり、生徒の環境意識を高めていきたい。</p>
	<p>③ 生徒や保護者が気軽に来室して利用でき、安心して相談に臨める環境づくりを一層進める。</p>	<p>教育相談室</p>	<p>【努力指標】 「相談室だより」により、生徒や保護者が親しみやすく、気楽に入室できるようになった。</p>	<p>「相談室だより」を発行した回数 が年間、 A 5回以上 B 4回 C 3回 D 2回以下 ※ 昨年度は4回</p>	<p>D</p> <p>相談室だより 発行回数2回 (1月末現在)</p>	<p>・「相談室だより」を2回発行し、気軽に相談室を利用できることを知らせた。特に1年生には全員対象のアンケート調査を実施し、相談室の存在をアピールした。 ・利用しやすい相談室を目指し、支援を充実させていく。</p>
	<p>④ 理科1・2年生が、「中学生サイエンスフェア」及び「創立記念祭」において、小・中学生を対象にした理科教室を開講し、科学教育の面から地域に貢献する。</p>	<p>SSH推進室</p>	<p>【満足度指標】 理科教室の運営を通して、生徒の地域貢献に対する意識が高まる。</p>	<p>「理科教室を開催して良かった」という生徒の割合が、 A 80%以上 B 80%以上 C 40%以上 D 40%未満</p>	<p>A</p> <p>開催して良かった 100%</p>	<p>・創立記念祭の「理科教室」に加え、県教委主催の「中学生サイエンスフェア」に参加し、異年齢の児童生徒に対するコミュニケーション能力を身につけることができた。 ・「理科教室を開催して良かった」と答えた生徒の割合は、100%であった。 ・科学教育の面から地域貢献に努めて生きたい。</p>
<p>⑤ ホームページの更新を定期的に行い、各種行事・部活動・SSHの様子や教育課程・進路などの情報を、よりわかりやすく発信する。</p>	<p>情報管理室</p>	<p>【満足度指標】 「学校のホームページにより、学校の様子がわかる」という保護者が増加した。</p>	<p>「学校のホームページにより、学校の様子がわかる」という項目の「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 ※ 昨年度は84.0%</p>	<p>C</p> <p>学校の様子がわかる 78.5%</p>	<p>・12月実施のアンケート調査では、「学校のホームページにより、学校の様子がわかる」と答えた保護者の割合は、78.5%であった。 ・公式HPの更新回数は、26回（1月末現在）である。 ・また、HPの他に、生徒・保護者・教職員を対象に携帯電話等へ学校の情報をメール配信している。1月末現在の加入者は1,163人であり好評を得ている。 ・本校の教育活動の様子や学校情報を、タイムリーに発信していきたい。</p>	

学校関係者評価委員会の評価

・開かれた学校づくりについては、一定の成果が上がっている。一部の取組については、更なる工夫が必要である。
 ②：ISO活動については、生徒の組織を有効に活用して環境意識を高めていきたい。
 ③：判断基準が適当ではない。相談室だけでなく、生徒同士が悩みを相談できる環境の整備も大切である。
 ⑤：携帯メールの迅速な配信に心がけることと、加入率を高めることが必要である。

学校関係者評価委員会の評価結果をふまえた今後の改善策

・学校公開やHP等による情報公開を進め、ボランティア清掃や理科教室などの社会貢献活動にも取り組みながら、地域から信頼される学校づくりに努める。